

# 岡山県立興陽高校

## 「世界らん展日本大賞」に挑戦

### 取組等の概要



造園デザイン科では、スペシャリストを目指して日々、専門技術を学んでいます。その中で1998年度より毎年7万人以上の入場者がある「蘭おかやま」へ、2001年度より毎年15万人以上の入場者がある「神戸らん展」へ作品を出展してきました。そしてついに、10年間に渡る、各蘭展での実績が認められ、2010年度から、読売新聞社内の世界らん展事務局より出展案内をいただき、東京ドームで開催される「世界らん展日本大賞」へ挑戦しています。

世界らん展とは、洋蘭、東洋蘭、日本の蘭など世界各地のさまざまなジャンルの蘭を集め、世界21か国が参加し、約3000種、約10万株以上の蘭が展示されています。また、観客動員数は約12万人。28回目を迎える日本最大の蘭の展覧会です。

私たちは、ディスプレイ部門（展示小間サイズ「間口」8m×「奥行」6m＝「面積」48㎡「高さ」7m迄）の区画に出展する作品づくりをおこなうため、毎年、10月から活動をスタートしています。まず、出展する作品をどのようにするか造園計画の授業で、一人一人が設計をおこないます。その際に大切にしていることは「造園」らしさを作品に織り込むことです。クラス全員で設計した図面の中から、良い図面を何点か選び出し、代表の生徒が一つの図面を仕上げます。その図面をもとに放課後の時間を使い、作品づくりに取り組みます。約1ヶ月かけて制作し、文化祭で試作品を展示します。（その際にはランを飾らない作品）その後2月の本番に向けて、手直しを重ね、本番では15名の代表の生徒が東京ドームでの作品制作をおこないます。

この活動は、4ヶ月間、造園デザイン科2年生全員の作品づくりですが、その中には、さまざまな苦労や失敗を重ねながら人としても造園デザイン科の生徒としても成長できる取り組みです。先輩から後輩へ志を受け継ぎ、続けている挑戦。この取り組みの成果は私たちや卒業生の心の中で今もなお脈々と生き続けています。私たちは、この経験や思いを後輩達に伝え、これからも続いていく造園デザイン科の様々な活動や新たな取り組みに生かし、造園文化を発信しています。